

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
I C Dコーディング I International Classification of Diseases Coding I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(医療機関における病歴管理)	メディカルクラークユニットを履修している学生のみ。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
コンピュータリテラシー I・II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
メディカルクラークユニットの科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
菊池 優子	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
我が国のIT化に伴い、全国の病院も電子化され包括医療・DPCを取り入れている。DPCに欠かせない、I C Dコーディングの基礎と、I C D-10・I C D-9-CMなど疾病分類の習得を図る。				
授業の目標				
① I C D-10・I C D-9-CMに関するコーディングの知識を習得し疾病分類ができるようにする。 ② DPC算定によるI C Dコーディングの必要性を説明できるようにする。 ③ 病名以外の記載内容を理解し分類ができるようにする。				
授業の方法				
P Cの操作を学習しながら、様々なケースでの技法を用い、様々な疾患及び関連疾患の講義・演習問題を繰り返し、I C Dコーディングの基礎の習得を図る。				
学習の成果 (学習成果)				
① 世界保健機関 (WHO) による疾病分類をすることができる。 ② I C Dコーディング検定3級に合格できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明 P C操作について			
第2回目	I C Dコーディングの歴史			
第3回目	I C Dコーディングのコードの構成			
第4回目	I C Dコーディングのの手順と例題			
第5回目	注釈・略語・記号の意味について			
第6回目	任意的追加コードについて			
第7回目	単一・複合コードについて			
第8回目	ダブル・多発病態コードについて			
第9回目	相互参照・関連用語について			
第10回目	続発・後遺症コードについて			
第11回目	新生物について			
第12回目	新生物コードについて *レポート① (提出日は授業内で指示)			

第13回目	Mコードについて	
第14回目	産科関連コードについて	
第15回目	産科関連コードとZコード	
第16回目	新生児について	
第17回目	新生児関連コードとZコード	
第18回目	症例に基づくコーディング（症例1～5）	
第19回目	症例に基づくコーディング（症例6～10）	
第20回目	症例に基づくコーディング（症例11～17）	
第21回目	症例に基づくコーディング（症例18～25）	
第22回目	症例に基づくコーディング（症例26～32）	
第23回目	症例に基づくコーディング（症例33～40）（小テスト①）	
第24回目	外因コードについて *レポート②（提出日は授業内で指示）	
第25回目	外因コード 問題（1～12）	
第26回目	症例サマリーのコーディング（1～5）	
第27回目	症例サマリーのコーディング（6～10）	
第28回目	症例に基づくコーディング（総合①）（小テスト ②）	
第29回目	症例に基づくコーディング（総合②）	
第30回目	学習のまとめ	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	基礎知識・演習を理解している。授業に集中して取り組んでいる。
レポート	10%	宿題等で提出を求めた課題の内容と提出率で評価する。
調査報告書		
小テスト	10%	授業の進捗に合わせて随時確認テストを行い、理解度に応じて評価する。
試験	50%	授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
発表内容（態度含む）		
その他	10%	検定試験の合否により加点する。
教科書と参考図書		
ICDコーディング基本テキスト（日本コーディングセンター）		
履修上の留意点・ルール		
<p>●実務経歴（職種：診療情報管理士 職歴：19年）      演習問題が中心となる。PC操作がスムーズにできるよう基本を理解すること。ICDコーディング検定を受験する場合は必ず履修すること。</p>		